

医療・福祉機関、企業などと連携する

連携に向けて	地域防災力を向上し、災害時の活動を円滑にするためにも“地域の結びつき”を強化することは大切です。近隣の専門機関や企業と連携することで、専門知識の学習や保有する物資・機材の提供などが期待できます。
必要なもの	●協定書作成例（“活動のためのツール”の「協定書作成例」を参考にしてください）
お問い合わせ	●活動の相談：広島県自主防災アドバイザー制度（消防保安課：082-513-2790）

STEP 1 連携の目的を決めます
 自主防災組織だけでは難しい活動など、「どのような事に連携が必要か」充分に話し合い、目的を決めます。

STEP 2 連携相手と連携方法を検討します
 話し合いの結果を基に、「誰とどのように連携したいか」、連携相手と方法を検討します。

STEP 3 連携に向けた話し合いを重ねます
 連携目的を相手にきちんと理解してもらい、お互いの負担にならないよう、連携していくための条件や役割分担を話し合います。

STEP 4 連携体制についてまとめます
 話し合いにより連携体制が決定したら、内容をまとめ、お互いで保存します。文書として保存しておくことで、担当者が代わっても、活動を円滑に進めることができます。

STEP 5 連携した活動を実施します
 災害時にどのような活動ができるか、連携体制を確認するため、防災訓練などを実施します。防災訓練の継続実施により、連携体制がより円滑なものとなります。



活動のポイント

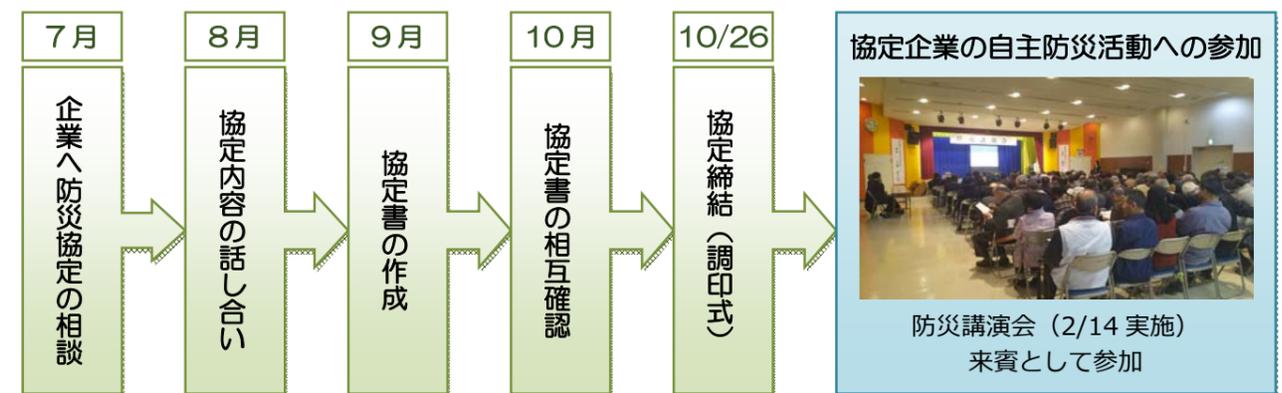
- 連携したい相手に自主防災活動の重要性を理解してもらいましょう。そのためには、根気よく話し合いを進めることが大切です。
- 連携できることには限りがあります。無理を言わずお互いの負担にならないようにしましょう。
- 活動が継続できるようになったら、連携内容をまとめた文書を「協定書」として保存しておきましょう。
- また、協定書を作成した後は調印式などを実施し、協定を締結したことを地域に周知しましょう。

企業との協定例

実施地域	広島市安佐北区 高南地区自主防災会連合会
協定日	平成27年10月26日
協定書	企業との協定書作成例（資料-26）を参考に作成
協定概要	災害時に公助が開始されるまでの物資支援を目的に防災協定を締結した。

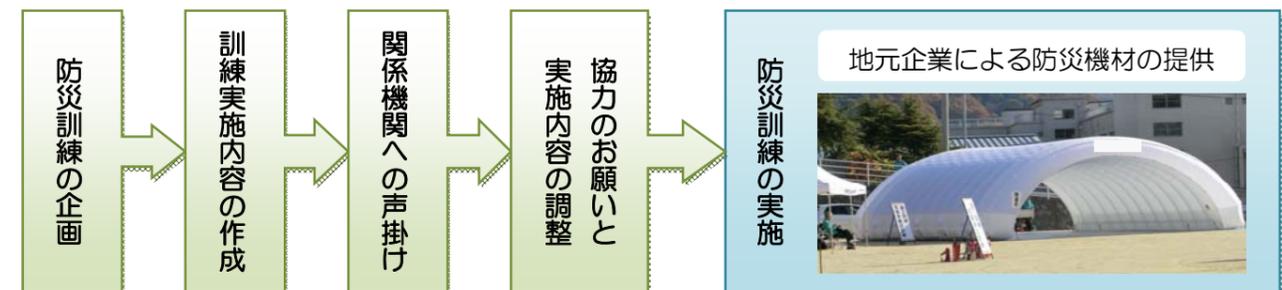


協定までの流れ



企業による防災訓練への協力例

協力までの流れ



活動メモ

【活動で困ること】	【改善案】
① どこと連携したらよいのか分からない。	① まずは地域にどのような機関・企業があり、災害時に「どんな強み」となり得るのか確認しましょう。
② 連携がスムーズにできない。	② 防災訓練などを一緒に行うことで、連携相手との役割分担が明確になり、地域に協力できることが理解しやすくなります。
③ 必ず協定を結ばないといけないの？	③ なるべく協定を結ぶことがよいですが、連携したい機関・企業とコミュニケーションを図り顔見知りとなるだけでも、災害時の活動がスムーズとなります。